

令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立東部特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立東部特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	91人

1. 使用状況

寄贈物品名	カローリングセット
使用学年及び人数	中学部、高等部 生徒20人
使用頻度	週1回程度
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業で活用する。 ・生徒の実態に合わせてマットやスロープ等も活用しながら使用している。
物品の使用による変化や効果	<p>軽い力でも投げることができるため、肢体不自由の障害のある生徒たちでも自分の力で投げることができた。学習の单元の中で繰り返して利用することで、ストーンを転がす力加減や腕の使い方などを試行錯誤しながら取り組むことができた。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>体育の授業だけではなく、余暇活動の一つとして広げていきたい。小学部から高等部までの多くの児童生徒がカローリングに楽しく取り組めるようにしていきたい。</p>
その他 希望や所感など	<p>児童生徒たちの中で楽しめるスポーツとして広げていきたい。障害のあるなしに関わらず取り組めるスポーツなので、保護者や教員、地域の人との交流等でも使用したい。新しいスポーツに親しむきっかけをいただきありがたく感じている。</p>

2. 活用の様子



児童生徒の実態に合わせて投げ方を工夫して行った。ハウス(的)を狙う時に、力加減や方向等を自分で調整したり、自分で投げるのが難しい生徒はマット等を使って少しの力でもストーンが転がるようにしたりして様々な工夫をしたことで、自分でカローリングに取り組むことができた。